

「ターゲット」から はじめよう —意味あるTarget trial emulationを 疫学研究で実践するために—

中・上級
レベル

現地(定員 500人)
＋
後日オンデマンド配信

※現地参加は、500名のみの
先着申込順となります。

米国ハーバード大の Miguel Hernán らが提唱した“target trial emulation”は“TTE”という略称でも知られており、観察研究データによる因果推論を行うためのスキームとして近年注目されています。疫学領域でも TTE をタイトルに冠して多くの研究が実施されてきています。

TTE と銘打たれた研究を目にしたとき、何やら特殊なデータ解析を用いた、ランダム化比較試験に準じたエビデンスを出す、最先端の研究手法だという印象を受けていないでしょうか？ あるいは、これまでの観察研究とはデザインも異なれば用いる手法も異なる、論文の構造も変わっている、ハードルの高い研究を想像していないでしょうか？

TTE 自体は、このような夢のような「データ解析方法」ではありません。そうではなく、①リサーチ・クエスションに対応した因果的な target effect を数式的に定式化する代わりに、target trial という「仮想的な臨床試験」を通して翻訳することで、幅広い研究者間で「求めたいもの(estimand)」を共有し、②target trial を模倣(emulate)するようにデータを扱うことで、デザイン上のバイアスを自然に避けることで、観察研究の質の向上を目指す研究デザインの「枠組み」です。複雑な手法や最先端のテクニックは、適切な TTE において必要でも十分でもないことをまず強調したいと思います。

このプレセミナーでは、TTE が真価を発揮するようリサーチ・クエスションを整理した概論から始め(講演1)、TTE で特徴的な手法として有名になったアプローチを紹介し(講演2)、TTE 実装の実経験をもとにした疫学研究者の考えを共有します(講演3)。TTE を通して、因果推論における治療戦略(治療レジメン)の厳密な定式化をうまく回避して、target trial という共通言語で、複雑な target effect の定義、推定、結果の解釈・限界までを議論する土台を身につける、そんなセミナーを企画しました。

2026.1.28 Wed 13:00-15:00 現地および
後日オンデマンド配信
(リアルタイム配信なし)

参加費／一般 4,000 円(学生 1,000 円) 現地会場／長崎市 出島メッセ長崎

※非会員の方もご参加いただけます。／※プレセミナーのみの参加も可能です
※終了後一定期間オンデマンド配信をします。後日別のセミナーの視聴を希望する方は、
複数のセミナーをお申込みいただけます。参加費は、それぞれ別にお支払いください。
※参加申込者には、後日学術総会事務局より参加方法をお知らせします。

※参加者は、後日マイページより領収書と参加証(疫学専門家申請の際の参加回数に
カウント可能)をダウンロードいただけます。
※疫学専門家申請にかかわるポイントに計上できる学術総会に付随するセミナーは、
一件のみとなりますので、ご注意ください。

参加
登録

下記、第 36 回日本疫学会学術総会の参加登録ページにてご登録ください。
<https://joint-jea-ieawpr2026.jp/> (右記二次元バーコードでもアクセスできます)



講師



萩原 康博

ランダム化比較試験は常に実施可能とは限りません。しかし、もし観察データを用いて実施したいランダム化比較試験と同じようなことができれば、研究目的を達成できると思いませんか？ TTE はこのような直感を、具体的な研究デザインと統計解析に落とし込む体系的な思考法であり実践法です。観察研究の現場に立つ疫学者を念頭に、TTE の概要についてわかりやすく解説します。



上村 夕香理

TTE の枠組みで臨床疑問 (Clinical Question) を整理した後、定義した治療レジメンの効果をどのように推定すべきかが重要な課題となります。レジメンの特徴によっては、通常の解析手法ではバイアスなく推定することが困難であり、3-step 法 (cloning, censoring, weighting) や逐次試験 (sequential trial) アプローチといった手法が威力を発揮します。本講演では、実際の事例を通じて、これらの手法が特に有用となる場面を整理し、解析手法のポイントと適用の考え方について解説します。



森 雄一郎

TTE の枠組みを学ぶと、観察研究の可能性が一気に広がる…そんな風に感じたことはないでしょうか。しかしその本質はむしろ、ときに曖昧な臨床疑問 (Clinical Question) から推定対象 (Estimand) を厳密に定義し、それを推定するための target trial を具体化する思考プロセスと、そのプロセスを通じ研究計画に適切な制約を課すことにあります。実例やその反省を交えつつ、実行可能なデザインに落とし込むまでの試行錯誤の過程について議論します。

対象とする参加者

本セミナーは以下のいずれかに該当する方を想定した内容となりますが、受講の必要要件ではありません。

- ・疫学研究の基本的なデザインと統計解析法を理解し、実践経験がある方
- ・TTE を実施したいと考えているが、そのハードルを高く感じている方
- ・TTE という用語は聞いたことがあり、その理論的背景や目的を知りたい方

[企画]

・竹内 由則 (横浜市立大学)

[講師]

- ・萩原 康博 (東京大学大学院・助教)
- ・上村 夕香理 (国立健康危機管理研究機構・生物統計研究室長)
- ・森 雄一郎 (京都大学・リサーチフェロー)

[オーガナイザー]

- ・竹内 由則 (横浜市立大学・准教授)
- ・篠崎 智大 (東京大学大学院・准教授)

[座長]

- ・後藤 温 (横浜市立大学・主任教授)
- ・伊藤 ゆり (大阪医科薬科大学・教授)
- ・高橋 邦彦 (東京科学大学・教授)

[共催]

日本計量生物学会